

平成28年度 宮の原小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 豊かな人間性を持ち、主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成
・目指す児童像 「本気で学ぶ」「元気に遊ぶ」「正しく生きる」「喜んで働く」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

本校教育の指標として「自立」「共生」「夢」「協働」を掲げ、指標に基づいた学校像を設定し、学校づくりに取り組む。
・学びのある学校…豊かな体験を通して、自信をもち自立した子どもを育む学びのある学校
・仲間のいる学校…友達と活動し、共に生きる喜びを感じる仲間のいる学校
・楽しい学校…夢の実現を目指して努力する子どもを支援する、楽しさのあふれる学校
・信頼される学校…家庭、地域と協働して子どもを育む、地域に開かれ信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 全教職員による目的の共有化、OJTと主体的な取組の促進
- (2) 指導力向上のための研修の充実、行動規範の徹底と危機管理等に関する意識の向上
- (3) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育の実践
- (4) より地域に開かれた学校づくりと地域に根差した取組の推進
- (5) ○小中一貫教育の推進（地域学校園としての研究推進）

【一条地域学校園教育ビジョン】 基本をしっかりと身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】・「宮小けやきプラン2016」の推進による特色ある教育活動の推進
○「小中一貫教育と地域学校園」としての取組の推進
- 【学 習 指 導】・学力向上アドバイザーによる指導・支援を踏まえた指導力向上のための研修の充実 読書活動の推進
・国語科における書くことを重視した授業の工夫
○「オープン研修」による一人一授業の実践や小中合同研修による「授業力の向上」
- 【児 童 生 徒 指 導】・「宮小キラリ賞」を活用した善行の奨励
・「宮小子どものきまり」を活用した規範意識の育成
・「宮小3つの約束」を活用した望ましい行動習慣の形成
○あいさつ運動の励行（地域学校園が連携した地域ぐるみのあいさつ運動を含む）
- 【健康（保険安全・食育）・体力】○体力づくりの推進（義務教育9年間を見通した各種検定表の活用等を含む）
○食育の充実（小中連携による「弁当の日」の実施等を含む）
・防災教育の推進

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 80%以上	・縦割り班活動等の充実や、児童会主体のあいさつ運動・いじめゼロ運動、スポーツ大会実施等を通して、主体的に「人とかかわる力」を育てる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定割合は92.3% ・縦割り班やあいさつ運動・いじめゼロ運動に取り組み、集団活動のための「人とかかわる力」を伸ばす努力をしている児童が多く見られた。 【次年度の方針】 ・「人とかかわる力」を育てるために、本年度と同じように縦割り班活動を継続し、あいさつ運動・いじめゼロ運動も引き続き実施する。

A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	・児童の実態を把握し、課題と思われる点を共通理解しながら、全校体制で指導する。 ・必要に応じてケース会議を開き、児童の実態に即した指導体制を整える。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定割合 92.5% ・職員による生活当番の体制を整え、生活目標を具体的に提示し、指導にあたった。 ・必要に応じてケース会議を開いたり、外部指導を仰いだりして児童の実態に合った指導・支援を行った。 【次年度の方針】 ・児童の実態を把握した上で課題と思われる点を把握し、個々の児童の課題を共通理解しながら、全校体制で継続的に指導する。
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・授業を通して、正しい言葉遣い(発言・発表・友達の呼び方等)を指導し徹底を図る。 ・「宮小こどものきまり」や「学びのマナー」を週目標に位置づけるなどして意識させ、発達段階に応じた指導を全職員で共通理解し、改善を図りながら継続的に取り組む等、指導の充実を図る。 ・「生活目標ふり返しカード」を活用することでさらに意識付けを図る。 ・「宮小3つの約束」を活用し望ましい行動習慣の形成に努めるとともに、「宮小キラリ賞」を設定し善行を奨励する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定割合 82.4% ・授業を通して、相手を意識した言葉遣いを指導し定着を図った。 ・「宮小のきまり」や「学びのマナー」、「生活」目標振り返りカードを意識できるよう児童の実態に合った指導を常に行ったことで改善が見られた。 ・「宮小3つの約束」を活用し望ましい行動習慣の形成に努め、意識させることによって行動化できるように指導した。望ましい行動を実践した児童には、善行を奨励し賞を授与した。 【次年度の方針】 ・「宮小のきまり」や「学びのマナー」、「生活目標ふりかえりカード」、「宮小キラリ賞」をより活用し、指導の充実を図り児童に意識させることで実践に結び付ける。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・とちぎっ子学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した内容や形態で指導を行う。 ・全校体制で、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、児童一人一人が分かる授業を目指す。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 95.5% ・授業では、本時のめあてを青、まとめを赤で書くなど、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、「分かる授業」の展開に努めた。 【次年度の方針】 ・4月に行われるとちぎっ子学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した内容や形態の指導を行う。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めると共にいじめは許されない行為であることを徹底的に指導する。 ・いじめの訴えや情報を得た時には、迅速に事実確認を行う。事実が確認された時には、情報を共有し、組織で対応する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定割合 96.6% ・いじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活が送れるように、絶えず指導にあたった。 【次年度の方針】 ・いじめはいかなる理由があっても許されないという意識を持たせるために様々な機会を生かし継続的な指導をする。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】全体アンケートの「学校の日課、授業、行事等は、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	・保護者・地域の方々の参加を得る行事等について、事前の調整を工夫し、丁寧な準備のもとに実施し、行事終了後は振り返りを行い、次年度への改善を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 98.5% ・連絡調整や打合せ等で時間をかけ、ほぼ予定通り実施することができた。 【次年度の方針】 ・保護者・地域の参加を得る行事等については事前の調整を行い実施する。また行事終了後は振り返りを行い次年度の改善を図る。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開等で、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	・年2回の学校公開や土曜授業を、学校を知ってもらう機会として効果的に実施する。 ・毎月、学校だより・学年だより等を発行するとともに、適宜ホームページを更新する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 98.2% ・土曜授業やオープンスクール、様々な便り、学校ホームページなどを通して、学校の実情を地域保護者に伝えられた。 【次年度の方針】 ・引き続き学校公開や情報提供を行い、よりよく理解が得られるようにする。また、ホームページの更新も適宜行う。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	・地域コーディネーターを活用して、教育活動全般にわたり協力を得られる人材を増やしたり、学校園で協力して人材確保に努めたりする。 ・街の先生・地域の人材の参画を得た授業や、企業の出前講座等を積極的に行い、地域の教育力をさらに学校に取り入れていく。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 95.1% ・地域コーディネーターが窓口になり、地域と学校と連携した活動が実施できた。 【次年度の方針】 ・さらに協力を得られる人材を増やし、街の先生や地域の人材をもっと授業に取り入れられるよう連絡調整していきたい。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・児童会主催の清掃コンクール（年1回実施）の実施方法や内容を工夫する。 ・清掃用具の使い方や清掃の仕方等を指導する（特にトイレ清掃）と共に清掃強化週間を実施し環境整備に努める。 ・教職員も身支度を整え、時間いっぱい児童と一緒に清掃する。 ・廊下の環境整備に努め、指導していく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 88.1% ・今年度は清掃強化週間を2回行った。すす払いも行い、環境整備に努めた。 ・清掃方法について児童と確認する機会を清掃担当交代時に設けた。 【次年度の方針】 ・清掃強化週間を引き続き行い、環境整備に努め、指導をしていきたい。 ・清掃方法について児童と確認する機会を、清掃分担当交代時に継続して行っていきたい。

		B 1 「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校経営の充実を図る。 【数値指標】全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	・学校で課題となっていることを積極的に説明し、協議会の意見を反映するとともに、一体となって課題解決にあたる。 ・地域人材を活用したより効果的な体験活動を実施し、学校教育の充実に努める。	B	【達成状況】 ・地域住民の肯定的回答 100.0% ・あいさつ運動や登下校指導等で、地域の方々の積極的な協力を得ることができた。 ・あいさつ標語コンクール、防災訓練、クリーンアップキャンペーン等、地域と一体となった活動を実施し、児童は充実した学校生活を送ることができた。 ・各学年とも地域人材を活用して、効果的な体験活動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・協議会と連携を図りながら各活動を見直し、学校教育がさらに充実するよう努める。 ・クリーンアップキャンペーンへの児童の参加が少ないので、意義の周知に努め、PTAの協力を仰ぎ、積極的な参加をうながす。
教育活動の状況	生活	A 10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】「児童は時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答 85%以上	○小中学校・家庭・地域と連携した「みやのはらあいさつ運動」を継続し、あいさつの定着を図る。（「みやのはらあいさつの日」毎月1日） ・教職員が率先してあいさつするとともに、具体的な時と場に応じたあいさつができるように、日常的に指導していく。 ・縦割り班やクラスでのあいさつ運動を実施し、意識を高めるようにする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 88.1% ・中央委員による昇降口でのあいさつ運動の結果、児童の意識が高くなり、改善傾向にある。 【次年度の方針】 ・今年度のあいさつ運動の継続とともに、学年に応じたあいさつの仕方（教師や来客に対しての）について学級活動などを用いて指導していきたい。
		A 11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・会話科や国語、道徳、学級活動の授業を通して、相手の立場や時と場に応じた正しい言葉づかいができるように、話し方の指導を行っていく。 ・児童の「さん」づけを意識して指導するとともに教師も言葉づかいには十分配慮する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 81.5% ・相手に応じた言葉づかいができていない児童が多い。 ・児童の「さん」づけについては学級では概ねできているようにも見えるが、常時、どの職員もという認識が必要。 【次年度の方針】 ・今年度同様、正しい言葉づかいができるよう指導していきたい。 ・教師は児童を呼び捨てにしない。 ・児童の「さん」づけについては、全職員で再確認し、意識をもって指導に当たりたい。
		B 2 児童は、学校生活の中で、みんなのために、進んで活動したり働いたりしている。 【数値指標】学校独自質問の「児童は、お手伝い、当番、係の仕事、ボランティア活動をしている」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・ボランティア活動について、児童会が主体となって朝会で呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや学年だより、地域学校園だよりなどで紹介したりして、意欲を高めていく。 ・道徳の時間等でボランティアの意義や助け合うことの大切さを教え、日常生活での実践の場で指導する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 90.9% ・校内の落ち葉掃きボランティア、あいさつ運動の呼びかけを各学級に行い、実施した。 ・意欲の高い児童と低い児童の差が大きい。 【次年度の方針】 ・今年度と同様に、ボランティア活動がある際には、各学級に呼びかけを行っていく。 ・また、活動の様子を学校便りなどの各種便りを通して引き続き紹介し、意欲を高める。

健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・児童が、目標を決めて進んで取り組めるように、各種の検定やがんばりカードなどを工夫改善し、指導に生かしていく。 ・共遊やクラス遊びを工夫し、校庭での運動を奨励する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 85.8% ・鉄棒や水泳、持久走、なわとびなどのカードを使って自分の目標を設定し、取り組むことができた。 ・持久走の練習期間が長くなったことで、練習に取り組む機会が増え、意欲的に取り組む児童が増えた。 ・ロング屋休みでの縦割班の共遊やクラス遊びが工夫され、高学年中心に低学年も楽しみながら活動できた。 【次年度の方針】 ・地域学校園で統一した「なわとびがんばりカード」を、子どもたちに分かりやすいように改善していく。 ・ロング屋休みの縦割り班での共遊の遊びが定着するよう、継続していく。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	・学校栄養士と連携し、教科における食に関する指導や生活習慣に関する指導を行うとともに、給食時の栄養指導等を継続して行う。 ・各種便りで保護者の啓発を行い、家庭と連携を図っていく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 83.0% ・お弁当の日計画ふりかえりカードを活用して、家庭へ食育の啓発を図ることができた。 ・ランチルームの使用回数が増え、給食指導も含め楽しい雰囲気のもと給食を食べることができた。 ・学校栄養士による給食中の巡回指導や授業での学級指導により、給食に対する児童の意識が高まった。 【次年度の方針】 ・今年度同様、栄養指導を継続して行う。 ・今年度同様、各種便りで保護者の啓発を行い、家庭と連携を図っていく。
	B3 給食後に進んで歯磨きを行っている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答 95%以上	・学級指導や給食後の歯磨き指導を工夫する。(養護教諭の各教室での指導の継続、共通のBGM、保健委員会の主体的な活動等) ・保健だよりの予防や治療の勧め等により、家庭の協力理解を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 94.9% ・歯磨き指導の時間に曲を流すことによって、時間を確保することができている。 ・歯磨きチェックが実施され、参加児童の歯磨きに対する意識がより高まった。 ・児童保健委員会の活動によって、歯みがきの大切さを再確認することができた。 【次年度の方針】 ・保健委員会の児童が、朝会時の集会活動や休み時間等に各教室を訪問したり放送をしたりすることによって、子どもたち自身の歯磨きに対する意欲を継続できるようにする。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	・学習意欲を向上させるために、魅力のある学習課題及び提示の仕方を工夫する。さらに、学び合いの工夫をしたり学習したことを生かせる場を工夫したりする。 ・児童が「話す」スキルを習得できるように、「話したい」テーマや場を設定したり経験の場を増やしたりするよう努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 89.2% ・魅力ある学習課題提示及び提示の仕方を工夫したり、実態に応じてペア学習やグループ学習などを取り入れたりして、児童が自分の考えをきちんともつことができるような授業展開に努めた。 ・学習活動の中に意図的に話し合い活動を取り入れた。 【次年度の方針】 ・話すスキルをより高められるような場の設定をする。

本校の特色・課題等	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒児童の肯定的回答80%以上	・分かったと実感できるような課題や授業展開を工夫し、集中して授業に取り組めるようにする。 ・「学びのマナー」「指導のマナー」の基本スタイルに基づき、発達段階に応じた学習態度・技能が身に付くように、各学年で学期ごとに重点項目を決め、効果的な指導を工夫する。 ・「学力向上アドバイザー」の支援のもと、具体目標を決めて指導にあたる。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 82.4% ・「学びのマナー」「指導のマナー」の基本スタイルに基づき、生活目標を作り指導してきた。 ・隔週末に生活目標の振り返りをして、次に生かせるように指導をした。 ・授業の中で、めあての提示、まとめ、振り返りという流れを意識して取り組んだ。 【次年度の方針】 ・発達段階に応じた学習態度・技能が身に付くように「学びのマナー」「指導のマナー」の指導をより徹底して行う。
	B4 家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値指標】学校独自質問の「宿題や自主学習を決めた時間にやっている」⇒児童の肯定的回答80%以上	・発達段階に応じた宿題を出したり、「自主学習の進め方」を継続して個別指導したりする。 ・学年ごとに、「家庭学習の手引き28」に基づいた、家庭学習の内容と方法を具体的に示し指導する ・音読と計算を毎日宿題に出すなど家庭学習の習慣を身に付けられよう指導する。 ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層の理解や協力を得られるように努める。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 71.2% ・「家庭学習の手引き」に基づいて、家庭学習の内容と方法を具体的に示し、個に応じた指導を行ったが個人差が見られた。 ・学校全体として音読と計算を毎日宿題にし、家庭学習の習慣を身に付けられるように指導した。 【次年度の方針】 ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、今年度同様、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、継続指導の重要性を伝えるとともに引き続き、協力を得られるように努める。
	B5 児童は、本をよく読んでいます。 【数値指標】学校独自質問の「児童は、本をよく読んでいます」⇒保護者の肯定的回答80%以上	・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のオアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 ・頑張る学校プロジェクト「宮小本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 ・朝の読書15分間を充実させたり、担任による読み聞かせをしたりするなど、本に親しむ機会を増やす。 ・多読者の表彰の場を増やしたり、読んだ本の感想を共有する機会をつくらしたりして意欲を高める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 73.2% ・読み聞かせ「お話たのしいね」「おいでおいでお話たのしいね」、家読「親子ブックリレー」を実施し、読書の習慣を身に付けさせるとともに、読書意欲を高める工夫をした。また、「けやき読書週間」で様々なイベントを実施し、読む楽しさを味わえるようにした。 【次年度の方針】 ・低学年から読書の習慣を身に付けられるよう指導し、家庭にも啓発を図る。 ・朝の読書の時間までに読む本を決めておくなどして15分間の読書時間を充実させたり、担任による読み聞かせをしたり、図書室利用の時間を有効に活用したりして、本に親しむ機会を増やす。 ・読む本の数を増やすとともに、読んだ本の感想を共有する機会をつくるなど、内容の充実も図っていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度も各種便り等を通して子どもの様子や家庭・地域と連携した取り組み等に関する情報を積極的に発信してきたため、「学校は積極的に情報を発信している。」「学校は家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」「学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」についての評価が高かった。
- ・「宮小3つの約束」や「生活目標ふり返りカード」を活用し、きまりやマナーを守ることの大切さを意識させ指導してきたことで、「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」についての評価が、教職員、保護者、地域住民、児童すべてで上昇した。
- 毎月一日の「宮の原あいさつ運動」が、引き続きまちづくり推進協議会を中心とした地域の方々や一条中学校生徒会の協力を得たり代表委員会を中心に全校体制で積極的に取り組んだりしたことで、昨年度と比較すると教職員や地域住民の肯定的回答の割合が増えた。
- ・これまでも最も大きな課題としてあげられていた「時と場に応じ言葉づかい」では、家庭との連携を図りながら、認め励ます場を意図的に設定したことで、特に地域住民の肯定的回答が上昇してきた。
- ・ボランティア活動の一環として、児童は「落ち葉掃き清掃」などに自主的に取り組んでいる。
- ・基礎・基本の定着をめざした授業の工夫や家庭学習の奨励、国語科の実践研究を通した授業力向上の取り組み、さらに学力向上アドバイザーによる指導力向上のための研修を進めたことで、「児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している。」「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」についての評価が上昇した。

6 学校関係者評価

学校の取り組みに関心をもっていただき、貴重なご意見をいただいた。（以下は具体的なお意見）

- ・防災訓練の際、児童一人一人が、熱心に指導を受けてとても感動した。
- ・学校が地域と共に子どもを育てる方向にあり、協力し合う空気がとてもうれしい。
- ・地域と学校がよく連携をとりながら協力し合って学校行事に取り組んでいると思う。
- ・教職員の方々は一生懸命教育に取り組んでくださっている。
- ・児童が学習に頑張っていることは理解しているつもりだが、公に公開できるような場があると、児童の様子が分かるのではないかと思う。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度も年間7回、学校長表彰（宮小キラリ賞）を実施したので、次年度も継続して実施したい。子どもの頑張りを認めたり、善行を奨励したりする場を少しでも多く設定することで、学校生活全般への意欲を高め、さらに自己肯定感を育てていきたい。
- ・次年度も各種便り等を通して積極的に情報を発信し、家庭や地域の協力が得られるように努める。
- ・次年度も引き続き、オープン研修の周知を図り、広く授業を公開し、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていく。
- 次年度もあいさつ運動などの取り組みを継続し、明るいあいさつの輪を広げて、定着を図っていきたい。
- ・「時と場に応じた言葉づかい」については、昨年度よりもさらに改善してきたが、引き続き意図的な継続的な指導に努め、家庭にも協力を呼びかけ、家庭と学校が共通認識のもとで指導できるようにしていく。
- ・今年度変更した項目「児童は平日の授業後や休日などに積極的に運動している」の評価が低いので、帰宅後や休日も積極的に運動できるように呼びかけていくと共に、児童一人一人がめあてをもって体力づくりに取り組めるよう指導していく。
- 今後も児童の自主性を大切に活動を一層重視するとともに、中学校とも連携を強化しながらボランティア精神の涵養に努めていく。